

事業者排出量削減報告書

住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)	京都市中京区河原町通二条南入一之船入町537-4						
氏名 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名)	株式会社 京都ホテル 代表取締役社長 平 岩 孝 一 郎						
事業者の主たる業種	ホテル業						
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者 (大規模エネルギー使用事業者 (原油に換算して1,500キロリットル以上)) <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者 (大規模運送事業者 (トラック又はバス100台以上/タクシー150台以上/鉄道車両150両以上)) <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者 (その他の温室効果ガスの大規模排出事業者 (二酸化炭素に換算して3,000トン以上))						
計画期間	平成20年 4月 ~ 平成23年 3月						
基本方針	環境マネジメントシステムの導入並びに省エネルギー法に基づき使用量の前年対比1%削減を目指す。						
推進体制	社長直轄の社内「環境会議」において水道光熱使用量の削減について原因を追究し削減に繋がるような適切な情報を発信する。						
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	環境マネジメントシステム名称	KESステップ1					
	適用範囲	(株) 京都ホテル サイト2					
	取得年月日	2001年10月1日					
	年度	設備、対象、工程等	措置内容				
20年度	高効率空調機導入①	吸収式冷凍機(3台)のうち1台をターボ冷凍機に変更、並びに冷水ポンプのインバーター化。					
21年度	高効率空調機導入②	吸収式冷凍機(2台)のうち1台をターボ冷凍機に変更。					
22年度	コージェネレーションの検討	ガス料金高騰の影響による既存設備の将来見直し及び運転調整					
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度 (実績) (19)年度 (二酸化炭素換算)	目標年度 (計画) (22)年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (計画)	報告年度 (実績) (21)年度 (二酸化炭素換算)	増減率 (実績)	
	A 事業所等排出区分	10,892.0 t	10,565.0 t	-3.0 %	9,567.7 t	-12.2 %	
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%	
	C その他排出区分	t	t	%	t	%	
	排出合計	*1 10,892.0 t	*2 10,565.0 t	-3.0 %	*4 9,567.7 t	-12.2 %	
	実績に対する自己評価	省エネルギー法に定められている前年対比1%削減を目標としていましたので今年度分として削減効果が大きく出ました。しかしこれに満足することなく引き続き努力を重ねていきたいと考えています。					
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度 (実績)	目標年度 (計画)	増減率 (計画)	報告年度 (実績)	増減率 (実績)
	経路及び事務所	二酸化炭素換算	0.143 t-co2/m2	0.138 t-co2/m2	-3.0 %	0.125 t-co2/m2	-12.2 %
		二酸化炭素換算			%		%
		二酸化炭素換算			%		%
	実績に対する自己評価	吸収式冷凍機からターボ冷凍機への移行により電力使用量は増加したが、ガス使用量が減少したことによる削減効果が大きく出ました。					
その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等	対策等の区分	目標年度 (計画)			報告年度 (実績)		
		取組量等	(二酸化炭素換算)		取組量等	(二酸化炭素換算)	
		森林の保全及び整備	(整備面積) ha	(吸収量) t	(整備面積) ha	(吸収量) t	
		府内産の木材の利用	(利用量) m ³	(削減量) t	(利用量) m ³	(削減量) t	
		自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	(発電量) kWh	(削減量) t	(発電量) kWh	(削減量) t	
			(熱供給量) GJ	(削減量) t	(熱供給量) GJ	(削減量) t	
		グリーン電力の購入	(購入量) kWh	(削減量) t	(購入量) kWh	(削減量) t	
		家庭における温室効果ガス排出量の削減効果分の購入	(購入量) t	(削減量) t	(購入量) t	(削減量) t	
		削減量等合計		*3 t	*5 t		
差引排出量 (排出合計-削減等合計)	基準年度 (実績)	目標年度 (計画)	増減率 (計画)	報告年度 (実績)	増減率 (実績)		
	1 10,892.0 t	()-(*) 10,565.0 t	-3.0 %	(*)-(*) 9,567.7 t	-12.2 %		
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	廃棄物の分別並びに生ごみの25%リサイクル、(今年度には生ごみ処理機を導入し発生量の抑制を進める計画)また、近隣周辺への清掃活動 (京都ホテルオーケラ周辺は月2回、からすま京都駅前周辺は月1回)等を実施及び「DO YOU KYOTO?」プロジェクトによるリサイクルを実施。						
特記事項	1994年竣工以来省エネ対策に取組んでおり、最近の2年間では高効率ターボ冷凍機への更新等も図り大きく削減のメリットを出しております。						

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、〇〇工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標 (生産数量、延べ床面積、走行距離等) を記入してください。
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度 (計画)」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度 (実績)」欄には実績の累計を記入してください。
 6 「特記事項」には、平成2年度 (1990年度) を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の実施、特定フロンなどの条例指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。